

WCP の窓

WCP に関する国内・国外の機関について

内田 英治*

世界気候計画(WCP)がスタートしてから、国際的にも国内的にも多くの機関が活発に動き出している。また、この「天気」でも気候変動について、できるならばシリーズとして解説を掲載したいと計画を進めている。そこで、多くの機関がどのような関係で動いているのかについてフロー図を考えて見た。およそフロー図に示す関係というものはなかなか画くに難しいものである。しかし、今後のWCP関係の勉強には不可欠のものであるろう。

このフローを画くに当っては、小林前気象研究所長、気象庁企画課(とくに気候変動対策室)の方々、観測部産業気象課 栗原弘一技官(対策室併任)にお世話になったこと、および世界気候小委員会(第11回)で了承を受けたことを付記したい。

主な説明

1. WCP

世界気候会議(WCC)が1979年2月12日~23日にジュネーブで行われ、世界気候会議宣言を採択した。同年4~5月、ジュネーブで開かれた第8回世界気象会議は、WMOが世界気候計画(1980~1983)を設立することを承認した(Cg-VIII)。その4つの柱は図に示されるとおり、WCDP(世界気候資料計画)、WCAP(世界気候応用計画)、WCIP(世界気候影響調査計画)、WCRP(世界気候変動研究計画)である。そしてWMOとICSUを結ぶ委員会は従来JOCであったが、これは従来のGARPよりWCRPへの移行という方針に沿って、1980年1月よりJSCとして発足した。

2. 他の国際機関

フローに示すような諸機関が関係しているが、とくにSCOPE関係の動き、南極WCRPに関連してSCAR

の動き、そして海洋との関わりについてSCORの動きが注目される。1981年5月には、SCORとCCCOとが共同で、東京で国際会議を開いた。

3. 日本学術会議

地球物理研究連絡会の下部組織である世界気候小委員会は、1978年12月に第1回の会合を開いてから1981年5月までに、11回会合を開催した。シンポジウムは1979年8月より5回行っている(関連学会共催)。またこの図にあるとおり、WCRP分科会もこの小委と関係を深くしている。

4. 大学

図示した大学がこの計画に参加して小委の会合に加わっている。また、学識経験者が行政ベースの会議に参加している。もちろん、WCPが進むにつれ、より多くの機関が参加されることと察せられる。

5. 行政機関

気象庁の気候変動対策室は1981年4月よりスタートした。また気候問題懇談会は、1979年11月より今まで7回にわたって開かれ、関係官庁の方々や学識経験者の出席により、幅広く気候変動の勉強と問題点を抽出した。

気候変動調査委員会は1976年9月に設置され、とくに報告書「近年における世界の異常気象とその長期見通しについて(II)」(1979年3月)を作成したことが目新しい。

環境庁環境懇談会は鈴木内閣総理大臣の指示に基づき、鯨岡環境庁長官の私的諮問機関として、「地球規模の環境問題に関する懇談会(座長 大来佐武郎 元外務大臣)」を1980年9月に設置し、10~12月の間に5回の会合を開き、「地球規模の環境問題に対する取組みの基本的方向について」と題する報告書を取りまとめた。

6. その他

アメリカにおいては1978年9月、国家気候計画法

* Eiji Uchida, 気象庁観測部。

(National Climate Programme Act) が議会で成立した。(そして商務省の NOAA に国家気候計画局が設置された。) この法律に基づき、1980年9月に国家気候計画およびその5か年プランが検討され作成されている。

このように、内外ともに気候変動問題は、研究と行政ベースが一体となって活発な動きを見せている。問題は

このロングランの気候変動対策に、各国および各担当者がどれだけ具体的に、しかも長期的に熱意を燃やすかであり、今後とも共通目的の一大使命に連帯の実を挙げることが期待される。

GARP の窓から WCP の窓へ

国際学術連合会議 (ICSU) と世界気象機関 (WMO) は、過去十数年間、天気予報の向上を目指し、大気大循環の機構解明のために協力して地球大気開発計画 (GARP) を推進して来た。GARP の総決算として、1978年12月から1979年11月まで1年間にわたって、第1回 GARP 全球観測実験 (FGGE) が実施された。これによって、大気大循環の短期の変動の機構解明がすすみ、2週間程度の予報精度の飛躍的向上が期待されている。

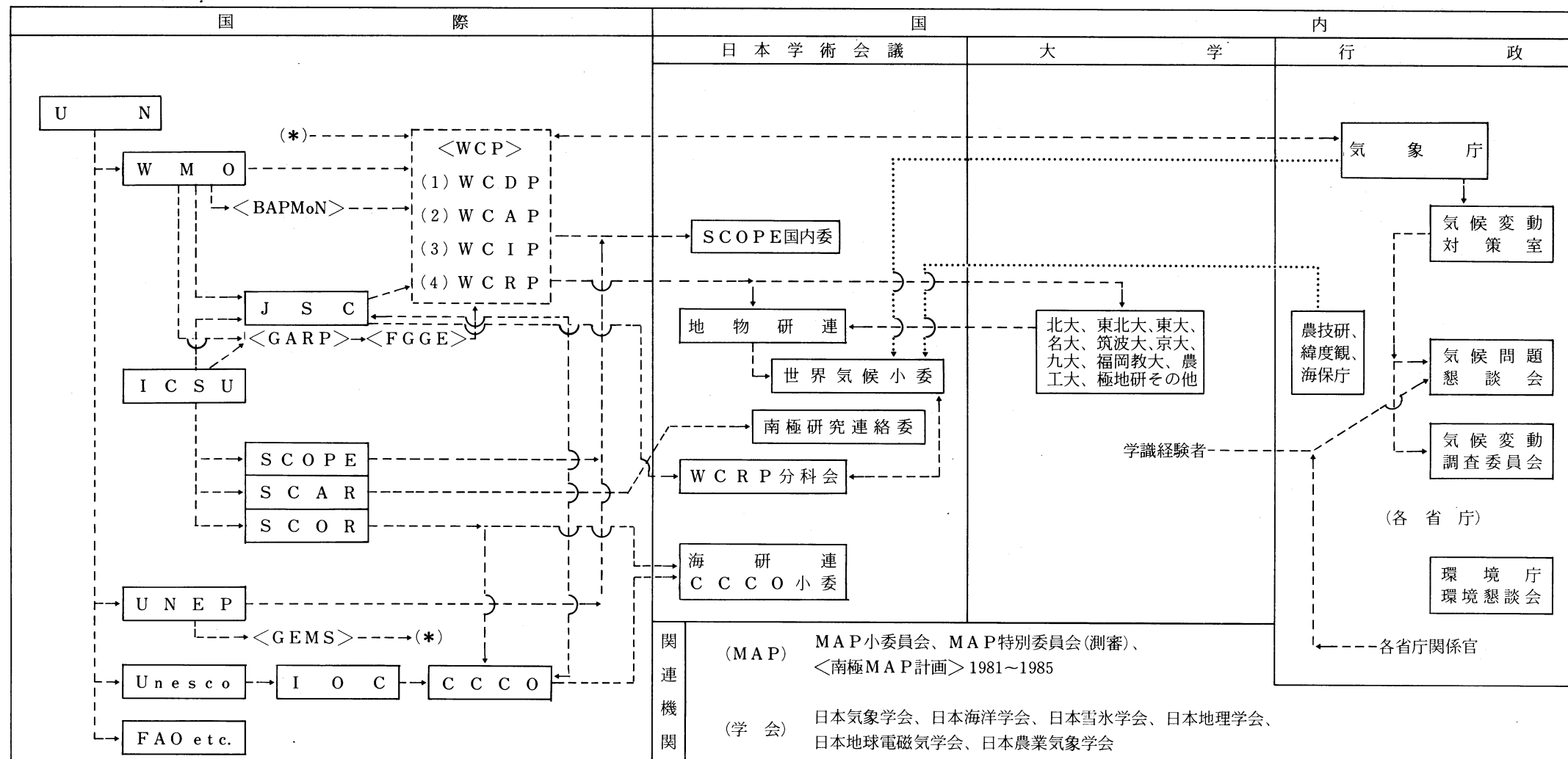
大気大循環のより長期の変動、すなわち世界気候の変動の研究について、GARP 合同組織委員会 (JOC) は、かねてから討議を重ねて来た。そして、GARP の第2期計画として気候変動の機構解明のための研究計画を推進する必要があることが合意され、計画案の方針が討議された。このような時に、世界気候に関する広範な関心から世界気候計画 (WCP) が WMO によって立案されることになり、JOC の取り上げた研究計画は、気候変動研究計画 (WCRP) として、WCP に包含されることとなった。WCRP は GARP と同様に、ICSU と WMO とが協力して推進する事が1979年11月に合意されている。WCRP のための合同科学委員会 (JSC) を、GARP の JOC に代わって設ける事となり、1980年の始めに発足した。

このようにいきさつをふまえ、天気編集委員会でも「GARP の窓」欄を WCRP のわくを越えた「WCP の窓」に改めることとなった。これが、その第1回目のニュースである。(「天気」編集委員会)

W C P に関する国内・国外の機関

組 織

計 画
プログラム



(略語) JSC (Joint Scientific Committee、合同科学委員会)
 BAPMoN (Background Air Pollution Monitoring Network、大気バックグラウンド汚染監視網)
 ICSU (International Council of Scientific Unions、国際学術連合会議)
 FAO (Food and Agriculture Organization of UN、国連食糧農業機構)

SCOPE (Scientific Committee on Problems of the Environment、環境問題科学委員会)
 SCAR (Scientific Committee on Antarctic Research、南極研究科学委員会)
 SCOR (Scientific Committee on Oceanic Research、海洋研究科学委員会)

UNEP (United Nations Environment Programme 国連環境計画)
 GEMS (Global Environmental Monitoring System、全球環境監視システム)
 IOC (Intergovernmental Oceanographic Commission、政府間海洋学委員会)
 CCCO (Committee on Climatic Changes and the Ocean、気候変動・海洋委員会)